

科 目 名	内部障害系理学療法学【理学】					開 講 キャンパス	神 埼
担 当 者	八 谷 瑞 紀						
開 講 年 次	3	開講期	前期	単位数	2	必修・選択	必 修（理学）
授業の概要 及びねらい	近年、内部障害に対する理学療法は、必要性が高まり重要視される傾向にある。本講義では、循環器疾患（虚血性心疾患、心臓血管外科術後）、呼吸器疾患（慢性閉塞性肺疾患、間質性肺炎、胸部・消化器術前後）に対する理学療法を中心に概説する。さらに、技術の習得を目標とした実習を行う。そして、4年生の臨床総合実習、卒業後に実際の患者さんへ活用できる能力を身につける。						
授 業 の 到 達 目 標	知識・理解 1）基礎専門科目、特に、解剖学、運動学、生理学、内科学の臨床に則した知識の整理 思考・判断 2）内部障害系疾患の理学療法評価法および治療法の知識の習得 関心・意欲 1）内部障害の患者の全体像を問診からとらえることができる 技能・判断 2）内部障害患者の ADL テスト、QOL テストを独自（疾患特異性を理解した）の視点から行える 3）心電図の仕組みを理解し、理学療法士に必要な心電図所見が読解できる。 1）内部障害系疾患の理学療法について関心を持つ 2）呼吸機能検査の各指標を理解し適切に実施できる 3）運動負荷テストが適切に実施できる 4）得られた結果を問題点、プログラム立案に反映することができる						
学 習 方 法	座学での講義および実習を中心に行う。						
テキスト及び 参考書等	《テキスト》シリーズ監修 奈良勲：内部障害理学療法学（医学書院）、適宜プリントを配布する 《参考書》フィジカルアセスメント徹底ガイド・呼吸（高橋仁美）／循環（三浦雅郁子）（中山書店）						
評 価 基 準 ・ 方 法	到 達 目 標						評価割合%
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験	◎					60	
小テスト等							
宿題・授業外レポート							
授業態度			◎			15	
受講者の発表		○		○		10	
授業への参加度			◎			15	
その他							
合 計						100	
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画（学習内容・キーワードとスケジュール）							
第 1 週	呼吸リハビリテーションと理学療法						
第 2 週	呼吸器系の生理学、解剖学、運動学						
第 3 週	呼吸リハビリテーションの対象疾患とその病態、治療						
第 4 週	呼吸理学療法のための評価（問診、視診、聴診、触診、測定）						
第 5 週	呼吸理学療法のための評価（運動耐容能評価）						
第 6 週	呼吸理学療法のための治療プログラム						
第 7 週	酸素療法と人工呼吸療法						
第 8 週	循環器系の生理学、解剖学						
第 9 週	心電図の診かた						
第 10 週	循環器リハビリテーションの対象疾患とその病態、治療						
第 11 週	循環器理学療法のための評価（リスクの層別化）						
第 12 週	循環器理学療法のための治療プログラム						
第 13 週	糖尿病の病態、検査、治療						
第 14 週	糖尿病のための理学療法評価と治療プログラム						
第 15 週	まとめ						
第 16 週							
備 考	授業外学習：事前に教科書等で予備知識を持つこと。授業後はテキストおよびノートを中心に復習を行うこと。 課題：講義ごとに課題を提示する。提出期限は厳守すること。						